

所報

たまじむ

平成 27 年 2 月 26 日

第 3 号

東京都多摩教育事務所

〔東京都立川市錦町6-3-1〕

Tel 042-524-7137

Fax 042-528-0985

育 て る

指導課長 儘 田 文 雄

指導者との出会いが、時に人を大きく育てる。

マイケル・チャン氏がコーチに就任して以来、錦織圭選手の快進撃が続いています。錦織選手によれば、変わったのはテニスだけではないそうです。精神面が強化され、テニス以外でも支えになっているとのこと。



多摩地区の各学校や教育委員会には、人を育てる素晴らしい上司がいっぱいいます。部下の話をじっくり聞く。考えを引き出し、

よい点を褒め、組織における自らの存在価値に気付かせる。仕事は任せ、その達成の過程を見守り、相談に乗る、援助する等の柔軟な支援を粘り強く続ける。

こうした中、部下にとって、上司との対話は活力の源です。報告・連絡・相談は、もはや義務ではありません。対話を通して自らの可能性に気付く部下は、新たな提案をするために勉強します。自ずと視野は広がり、力が付きます。自らの意志で取り組むため、やりがいも増し、徐々に成果が実感できるようになります。

育てる上で大切なことの一つに、相手の意志、主体性が発揮される環境をいかにしてつくり出すか、ということがあります。これは何も、上司に限ったことではありません。学校、家庭、地域には育てる立場の人がいます。いずれも、誠意をもって相手の話を聞き、関わりの中で自信を与え、生き生き、伸び伸びとした活動を導き出すことが、本人と組織の力を高めることにつながります。

もうすぐ年度末、学校教育の「決算期」です。教育とは文字どおり「教え育てる」こと。education（教育）の語源はラテン語のeducereで「引き出す」という意味があります。指導者は、相手の自己成長力を信じ、話をじっくり聞いて考えを引き出し、そして待つことが肝要でありましょう。

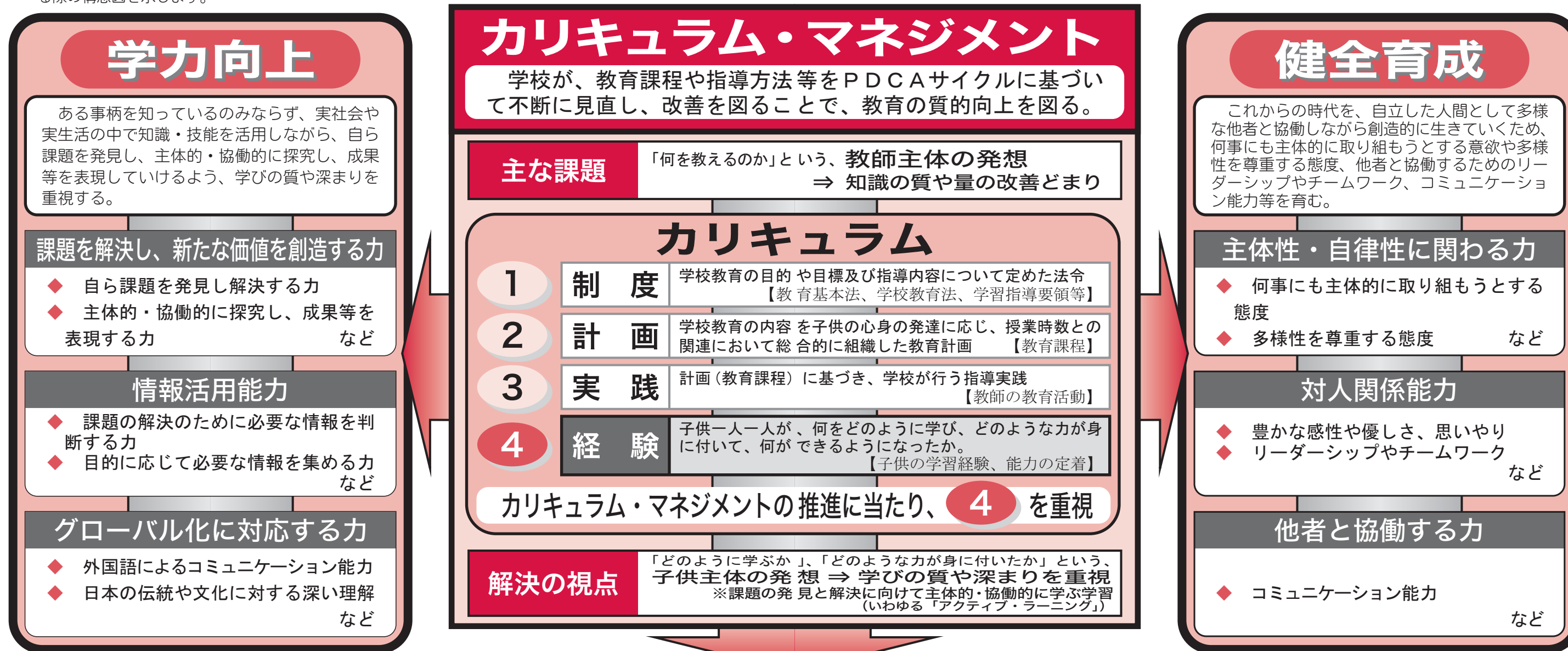
この一年、自分は、人を育てることができたか。真摯に自問自答し、次年度に生かしたいと考えています。

目 次

【巻頭言】 育てる	1
【特集】 これからの時代に求められる資質・能力の育成 ―カリキュラム・マネジメントを通して― ...	2～3
【特集】 子供が自ら考え、判断し、学び合う授業づくり ―生活指導の三つの機能を生かして― ...	4～5
【特集】 自治的能力を育む学級・学年・学校づくり	6～7
【特集】 学ぶ意欲を高め、力の付く授業 ―鍵を握る教師の発話―	8

これからの時代に求められる資質・能力の育成 ―カリキュラム・マネジメントを通して―

- ◆ 東京都教育委員会では、「東京都教育ビジョン（第3次）」において「社会全体で子供の「知」「徳」「体」を育み、グローバル化の進展など変化の激しい時代における、自ら学び考え行動する力や社会の発展に主体的に貢献する力を培う」ことを基本理念として掲げ、諸事業を推進しています。
- ◆ 昨年11月、中央教育審議会に初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について諮問がなされました。それによれば、これからの時代の子供たちには、高い志や意欲をもつ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が必要になります。
- ◆ 今後学校は、カリキュラム・マネジメントを一層促進させ、例えば、「主体性・自律性に関わる力」、「対人関係能力」、「他者と協働する力」、「課題を解決し、新たな価値を創造する力」、「情報活用能力」、「グローバル化に対応する力」など、汎用性の高い能力を着実に育てていくことが重要です。
- ◆ その際、ポイントとなるのは、カリキュラムを広義に捉えることです。本特集では、カリキュラムを構成する主要素として、①制度（学習指導要領等）、②計画（教育課程）、③実践（教師の教育活動）、④経験（子供の学習経験、能力の定着）の四つに着目します。その上で、カリキュラム・マネジメントの推進に当たり、従来に増して「④経験（子供の学習経験、能力の定着）」を重視します。そのことにより、教育課程の在り方を、従来の「何を教えるのか」という教師主体から、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「どのような力が身に付くか」、「何ができるようになるか」という、いわば子供主体に転換し、学習や生活の場で生きて働く力を、学力向上と健全育成の両面から追究する際の構想図を示します。



高い志や意志をもつ自立した人間として、他者と協働しながら新たな価値の創造に挑み、未来を切り開く力

本特集の活用例 ○ 校長会資料 ○ 副校長会資料 ○ 主幹教諭及び主任教諭研修会資料 ○ 管理職研修会資料

〔参考文献〕 ○ 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（中央教育審議会 平成26年11月20日） ○ 育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会 ― 論点整理 ―（文部科学省 平成26年 3月）
○ 第二期教育振興基本計画（平成25年 6月14日 閣議決定）

子供が自ら考え、判断し、学び合う授業づくり ―生活指導の三つの機能を生かして―

- ◆ 授業における生活指導には、二つの側面があります。一つは、授業規律の確立など、子供一人一人の学習への適応を図ること。もう一つは、子供が主体的・協働的に学習に取り組めるよう、創意工夫ある指導を行うことです。
- ◆ これまで授業における生活指導というと、前者に意識が向きがちでした。しかし、各教科等のねらいを達成するためには、例えば、一人一人の子供のよさや興味・関心を生かす指導、各自の考えを交流して互いのよさを学び合わせる指導、子供が主体的に学ぶための課題設定や学び方等を自ら選択する場を工夫した指導など、様々な創意工夫が必要です。
- ◆ そこで本特集では、生活指導の三つの機能、「自己存在感を与える」、「共感的な人間関係を育成する」、「自己決定の場を与える」を生かした授業づくりのポイントについて、国語科の書くことに関する指導事例を基に紹介します。
- ◆ 三つの機能を生かした授業づくりは、単に各教科等における指導上の工夫にとどまらず、子供たちの自己肯定感を高めることやコミュニケーション能力の育成、よりよい人間関係の構築に資するなど、「子供たちの成長を促す積極的な生活指導」を行うことでもあります。
- ◆ 本特集を参考にして、各市町村の生活指導主任会や各学校の生活指導部会が中心となって、授業研究をリードすることを期待しています。



自己存在感を与える	共感的な人間関係を育成する	自己決定の場を与える
学ぶ楽しさや達成感を味わわせる。	子供同士で認め合い、学び合わせる。	学習の課題や内容、方法等を選択・決定させる。

指導事例

小学校 第4学年 国語 「3年生にがんばったことを伝えよう ―リーフレットの作成―」
〈身に付ける力〉

- 自分で書くことを決め、書く上で必要な事柄を調べる力
- 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く力
(指導事項「B 書くこと」ア、ウ)

- 4年生になって自分ががんばったことの中から、3年生に伝えたい事柄を選ぶ。
- 書くことの中心を明確にして、リーフレットにまとめる。

課 題 把 握 (課題設定や取材)	個 の 学 び (構成・記述・推敲)	学 び 合 い (交 流)	課 題 解 決 (推 敲)
〈 第 一 次 〉 ○ 4年生になって新たにできるようになったことや、3年生に伝えたいと思う活動の中から、書くことを決める。 ○ 書く上で必要な事柄について、アンケートやインタビューなど、目的に合った取材を行う。	〈 第 二 次 〉 ○ リーフレットの構成を考える。 ○ 取材した事柄から伝えたい内容を決め、写真や資料を選んで説明する文章を書く。 ○ 書いた文章を読み返し、間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。	〈 第 三 次 〉 ○ リーフレットの下書きを互いに読み合い、感想を伝え合う。 ・ リーフレットの特徴を生かした表現となっているか。 ・ 伝えたいことの中心が分かりやすく書かれているか。	〈 第 四 次 〉 ○ 交流を通して学んだことを基に、必要に応じてリーフレットを書き直す。 ○ 分かりやすい文章の書き方など、単元で身に付けた力について振り返る。
自己存在感を与える			
◆ 子供自身が、「書きたい。」、「3年生に伝えたら喜んでもらえそうだ。」と実感する課題を設定させる。	◆ 教師が作成したモデルを参考にして、自分の考えが明確になるようなリーフレットの構成、記述の仕方、推敲の観点を学ばせる。	◆ 下書きを読み合い、よい点を認め合わせることで、書くことに対する意欲をもたせる。	◆ 本単元の学習を振り返らせ、子供が「また、書きたい。」、「学んだことを他教科等で生かしたい。」と実感させる。
共感的な人間関係を育成する			
◆ 課題や取材方法等について、交流する機会を設け、互いのよい点を学び合わせる。	◆ 文章全体の構成について、交流する機会を設け、互いのよい点を学び合わせる。	◆ 下書きを読み合わせ、考えの明確さや表現の巧みさについて学び合わせる。	◆ 推敲した文章について交流する機会を設け、互いのよい点を学び合わせる。
自己決定の場を与える			
◆ 4年生の学校生活を十分に思い起こさせ、3年生に最も伝えたい事柄を決めさせる。	◆ 3年生に分かりやすく伝えるために、構成、記述する理由及び事例などを決めさせる。	◆ 互いに改善点を指摘し合うことで、推敲の箇所を明確にさせる。	◆ 交流を基に再度推敲し、より分かりやすい記述に書き直させる。

自治的能力を育む学級・学年・学校づくり

- ◆ 教育基本法に定められた教育の目的の一つに、「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質」の育成があります。このことを踏まえ、自立した社会の担い手として求められる資質・能力を育成することは、公教育の普遍的な使命です。
- ◆ しかしながら、今日の日本の子供たちの社会参画の意識が国際的に見て低く、社会性の未熟さゆえに、協力してよりよい生活を築くことができなくなっているとの指摘があります。
- ◆ そこで本特集では、学校教育で育む自治的能力を「子供たちがよりよい学校生活を築くために、諸課題を見だし、これを自主的に取り上げ、協力して解決する力」と捉え、子供たちが自治的活動を学級・学年を単位として進める事例を基に、自治的能力を育むポイントについて紹介します。

小学校第 5 学年

事 例 新 1 年生歓迎実行委員会 ―新 1 年生 のことは、任せて！―

- <ねらい>**
新 1 年生が安心して学校生活を始めることができるよう、実行委員会を中心に自分たちができることを話し合って決定し、諸準備を行う。
- <概要>**
○ 第 5 学年の各学級で、新 1 年生を迎えるためにできることについて話し合う。
○ 実行委員が学級での協議結果をもちより、活動内容を協議・決定する。
○ 実行委員会は、「新 1 年生を迎える会」の企画を行う。その他の活動については、各種委員会に役割を分担する。
○ 実行委員会で諸準備の進捗状況を確認し、必要に応じて役割の調整・統合を行う。
- <育成する力>**
1 新入生のために、自分たちができることを見いだす力
2 話し合って活動内容を決定する力
3 決定事項を協力してやり遂げる力
※ 小学校学習指導要領 特別活動 学級活動(1)ーア・ウ、児童 会活動 2ー(1)

学 級

実行委員会

指導のポイント

- 1** ○ 新入生が楽しみにしていることや、不安に思っているであろうことについて考える。
- 2** ○ アンケート結果を基に、協議を行う。
【協議内容例】
・新 1 年生が喜ぶ飾付け
・学校のきまりを紹介
- 新 1 年生に見通しをもたせる取組
・行事カレンダー(広報委員会)
・ビデオレター
学校の概要(代表委員会)
生活のきまり(放送委員会)
遊びのきまり(体育委員会)
給食のきまり(給食委員会)
- 1 年生に、アンケートを実施し、結果をまとめる。
- 1 年生のアンケート結果
【楽しみにしていたこと】
遠足、プール、運動会など
【心配していたこと】
友達、学校のきまり、給食など
- 各学級の協議内容を基に、活動内容を決定する。
○ 「新 1 年生を迎える会」の企画をする。
○ 各種委員会に役割分担を行う。
- 新 1 年生の朝学習準備
・読み聞かせ(図書委員会)
・朝のゲーム(集会委員会)
- 互いに協力して実践する。
- 各種委員会の準備状況を把握し、必要に応じて役割を調整・統合する。
- ◆ 各学級から実行委員を 2～3 名選出させる。
◆ 1 年生の全児童対象にアンケート調査を実施する。
- ◆ アンケート調査から、新 1 年生の心配事を解消する取組について考案させる。
◆ より多くの児童が主体的に関われるよう、既存の児童会組織を活用した取組について提案させる。
- 新 1 年生が喜ぶ環境
・昇降口に鉢を設置(栽培委員会)
・飼育小屋の動物紹介(飼育委員会)
・トイレに楽しい掲示(保健委員会)
- ◆ 新 1 年生の立場に立った主体的な活動を評価する。

中学校第 2 学年

事 例 3 年生ゼロ学期の取組 ―学校リーダーとしての自覚の醸成―

- <ねらい>**
第 2 学年の 3 学期を「3 年生ゼロ学期」と捉え、子供たちに学校リーダーとしての自覚を育む。
- <概要>**
○ 学級ごとに学校生活を振り返り、充実と向上に資する視点について協議する。
○ 学級委員が学級での協議結果をもちより、学年委員会として活動内容を協議・決定する。
○ 次年度を待たずに行える学年の活動については、学年委員会で企画書を作成し実施する。
○ 全校で行う活動については、次年度の生徒総会で提案するための準備を行う。
- <育成する力>**
1 学級や学校の生活を充実・向上させるための視点を見いだす力
2 話し合って活動内容を決定する力
3 決定事項を協力してやり遂げる力
※ 中学校学習指導要領 特別活動 学級活動(1)ーア、(2)ーカ、生徒会活動 2ー(1)

学 級

学年委員会

指導のポイント

- 1** ○ 学校生活をよりよくするために、日々の生活を振り返り、改善の視点をもつ。
- 2** ○ 校内や地域での活動内容等について話し合う。
- 各学級での協議結果を基に、今年度と次年度に取り組む活動内容を分類・整理し、企画書を作成する。
- 【今年度の取組(例)】
学年シンポジウム
テーマ「『いじめゼロ』に向けた行動宣言」
- 【次年度の取組(例)】
「挨拶プラス一言運動」
「高齢者との絵手紙による交流活動」
「小学生との挨拶運動」、「善行促進運動」
- 「いじめゼロ」に向けた課題と解決の方策について協議する。
- 各学級委員は、学年シンポジウムでの発言骨子を準備する。
- ◆ 校内だけでなく地域の活動についても考えさせる。
◆ 今年度の活動について企画書を作成させる。
- 「学年シンポジウム」の開催
・シンポジスト(学級委員)は、各学級の考えを発表し合うとともに、意見交換を行う。
・フロアメンバーからも意見を募り、「いじめゼロ」に向けて何をすべきか協議を行う。
- 学年シンポジウムを振り返り、行動宣言の案文を作成する。
- 各学級の案文を基に行動宣言をまとめ、学年委員会だよりに掲載する。
- 次年度の取組について、生徒総会で提案する内容をまとめる。
- ◆ 学年シンポジウムで意見交換が行えるよう、発言骨子を互いに読み合わせる。
◆ 次年度の学年委員会への引継ぎ案を作成させる。
- 行動宣言の内容を実行できているか、定期的に確認する。
- ◆ 学年シンポジウムで意見交換が行えるよう、発言骨子を互いに読み合わせる。
◆ 次年度の学年委員会への引継ぎ案を作成させる。

本特集の活用例 ○ 校内研修会資料 ○ 若手教員育成研修会資料

〈参考文献〉 ○ 小学校・中学校学習指導要領解説 特別活動編(文部科学省 平成20年 8 月・9 月) ○ 「中学生熟議」のすすめ 子どもたちの話し合いと実践で創り出すよりよい学級・学校生活(文部科学省 平成23年12月)
○ 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編(文部科学省 国立教育政策研究所 平成25年 7 月) ○ 学 級・学校文化を創る特別活動 中学校編 学級活動の基本 話し合い活動を中心にして(文部科学省 国立教育政策研究所 平成26年 6 月)

学ぶ意欲を高め、力の付く授業

— 鍵を握る教師の発話 —

- ◆ 発話とは、言語を音声として発すること。また、その結果発せられた音声言語のことです。
- ◆ 授業は、発問や説明、指示など、教師の発話によって成立します。その内容は、子供たちの学ぶ意欲や学習の広がり・深まりに大きく影響し、授業の成否を左右します。
- ◆ しかし、日常の授業において、教師が自らの発話を振り返り、改善・充実を図る機会は、そう多くないのが現状ではないでしょうか。
- ◆ そこで本特集では、1単位時間の授業の流れに沿って、子供たちの意欲を高め、着実に力を付ける教師の発話の主なポイントを掲載します。

こんな子供のつぶやき、ありませんか	ポ イ ン ト
導入	1 身に付く力とその価値を自覚させる。 【例】「今日の学習のめあては、〇〇することができるようになることです。」 〈力の自覚〉 「〇〇ができるようになると、△△する際に役に立ちますよ。」 〈価値の自覚〉
展開	2 力を付けるための学習活動の流れを伝える。 【例】「まずは資料を読み、自分の考えをノートに記入します。その後、意見を発表し合い、各自の考えを補強します。」〈学習活動の自覚〉 3 子供の発言を生かすことで、論理的思考を促す。 【例】「Aさんの考えに、付け足しはありますか。」〈補足〉 「Aさんの考えを別の言葉で説明できますか。」〈言い換え〉 「AさんとBさんの考えを聞いて、何か気付いたことはありますか。」〈関連付け〉 「AさんとBさんの考えを比べると、どのような違いがありますか。」〈比較〉 「Cさんの考えの〇〇ということについて、どう思いますか。」〈分類〉 「今までの考えをまとめると、どのようになりますか。」〈まとめ〉 「今までの友達の考えを参考にして、自分の考えをまとめましょう。」〈再構築〉
終末	4 話し合いのねらいを明確に伝える。 【例】「話し合って、考えを一つにまとめなさい。」〈収束的思考〉 「話し合って、できるだけ多くの考え方を見付けなさい。」〈拡散的思考〉 5 学習の成果や新たな課題を自覚させる。 【例】「今日の学習を振り返り、新たに分かったことを書きましょう。」 〈学習成果の認識〉 「今日学んだことを生かして、更に学習したいことは何ですか。」 〈新たな課題の自覚〉

たまじむ
コラム

話の分かりやすい人と、そうでない人

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 全体から話す。 | 部分から話す。 |
| 2 結論から話す。 | 過程から話す。 |
| 3 具体的に話す。 | 抽象的に話す。 |
| 4 相手が知りたいことを話す。 | 自分が伝えたいことを話す。 |
| 5 相手の理解に合わせて話す。 | 自分のペースで話す。 |

